

平和の日メッセージ

昭和19年（1944年）11月24日、武蔵野市が初めて空襲を受けてから、79年が経ちます。

当時この地には、ゼロ戦などの戦闘機のエンジンを製造していた中島飛行機武蔵製作所という軍需工場がありました。この工場は東洋一と言われるほど大規模で、米軍による本格的な本土攻撃の第一目標となりました。終戦までに空襲は9回を数え、工場関係者200名以上が犠牲となり、周辺地域でも多くの住民が巻き添えとなりました。

武蔵野市では、この空襲で犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、戦争の記憶を継承し、平和の尊さを次世代につないでいくために、平成23年に武蔵野市平和の日条例を制定し、初空襲のあった11月24日を「武蔵野市平和の日」と定めました。

武蔵野市平和の日条例の前文には、「市民とともに国際相互理解の推進に努め、恒久平和の実現を目指すことを誓う」とあります。

未来の子どもたちに戦争も核もない平和な世界を継承していくために、国内外の自治体と連携し、これからも戦争の悲惨さと平和の尊さを武蔵野市から積極的に発信し続けてまいります。

戦争を体験された方から直接体験談を聞く機会も大変貴重になっています。今年は戦争体験者の方々から直接伺ったお話を記録した「武蔵野から伝える戦争体験記録集第IV集」を発行いたしました。

また、これからの平和施策などを検討していくため、今年7月に学識関係者や公募委員で構成する、平和施策のあり方懇談会を設置し、（様々な）ご意見を伺っているところです。

私たちには、「体験の記憶」を語り継いでいく使命があります。貴重な記憶を風化させず、未来へつないでいくため、今後も若い世代に武蔵野の空襲の歴史や戦争体験の記憶を継承しながら、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていく活動を市民の皆さまとともに取り組んでまいります。

2023年11月24日 武蔵野市長 松下 玲子